

〇〇〇〇邸 耐震診断報告書

診 断 日 H〇年 〇月 〇日.....

診 断 士 登 録 番 号 第〇〇〇〇〇.....

診 断 士 名 〇〇〇〇〇〇 (印)

TEL: 〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇

FAX: 〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇

所 属 〇〇〇建築事務所

〇〇〇工務店 など

現地調査報告書

1 調査日時 平成 ○ 年 ○ 月 ○ 日
 午前 ○ 時 ○ 分 より
 午後 ○ 時 ○ 分 まで

2 担当者 診断士登録番号 第○○○○○○
 診断士名 ○○○○○○

3 調査内容

イ 敷地

- ・調査建物の敷地状況を目視により確認。
- ・地盤の健全性等の敷地を構成する工作物のクラック調査。

ロ 建物外部

- ・基礎形式および地盤から上部の基礎立上り状況を外部から目視確認。
- ・床下状況など確認。
- ・外壁の損傷状況などを目視確認。
- ・棟の不陸や仕上材の損傷状況などを目視確認。

ハ 建物内部

- ・間取り確認、間取り作成。
- ・床、柱の傾きの確認。
- ・建具の開閉による鉛直方向変位及び仕上材のクラックの目視確認。
- ・建物に影響を与えるような特殊荷重の有無の確認。
- ・天井内を目視により、横架材・柱仕口部分の緊結金物及び火打ち材、水平構面の仕様・接合状況を確認。
- ・床下を目視により、束のずれ、土台のずれ、湿気状況を確認。

木造住宅(在来軸組構法)の耐震診断 チェックリスト

氏名	○○○○ ○○	建物所在地				
電話番号	○○○○-○○-○○○○	○○○	市	○○○	町	○○丁目○-○
建設年度・ 上棟時の状況	建設年度	M	T	(S)○○	年頃	・判らない
	筋交	・あり			・なし	・判らない
	えつり壁	・あり		(・なし)		・判らない
敷地・地盤	もともとの状況は	宅地				
	地盤は良い方ですか	(・良い)				・やや悪い
		・普通		傾斜地		・悪い
基礎	基礎の種類は	(・コンクリート)		・コンクリートブロック		・石(玉石) ・判らない
	コンクリートの場合					
	ひび割れ	(・あり(2mm以下))			・あり(7mmより大)	・判らない
	鉄筋は	(・あり)			・なし	・判らない
	フーチングは	(・あり)			・なし	・判らない
災害・被害等	浸水はありましたか	・あり			(・なし)	・判らない
	漏水はありましたか	・あり			(・なし)	・判らない
	何処から漏水？	・屋根			・壁	・判らない
	修理できていますか	・修理完了			・未修理	
	シロアリの被害は	・あり			(・なし)	・判らない
	シロアリの駆除は	・終了			・未処理	・判らない
	台風被害はありましたか	・あり			(・なし)	・判らない
	火災被害はありましたか	・あり			(・なし)	・判らない
	あれば被害状況は	・あり			・なし	・判らない
	その他の被害災害は	・あり			(・なし)	・判らない
今までの建物の修理箇所と内容は	特になし					
不安箇所がありますか	1階 廊下がフワフワする。					
建具(襖・障子等)の開閉は	(・良好)			・不良		
床	傾斜は	・あり			(・なし)	・判らない
	床鳴りは	(・あり)			・なし	・判らない
	フワフワする	(・あり)			・なし	・判らない
柱	柱のサイズ	・105角			(・120角)	・135角 ・その他
	傾斜はありますか	(・あり)			・なし	・判らない
	傾斜の大きさは	(1/500以下)			・1/120以下	・1/120以上
屋根	屋根の材料は	(日本瓦)			鉄板瓦棒葺き	
		コロニアル				
	日本瓦に葺土があります	・あり			(・なし)	・判らない
外壁の仕上げは？使用されている材料 すべてに○印をつけてください。	・モルタル			・シタ い		(トタン)
	・タイル			・サイディング		・その他
確認申請書はとっていますか	(・あり)			・なし		・判らない
住宅金融公庫の融資を受けましたか	・あり			(・なし)		・判らない
その他 自由記入欄	確認申請はとったが、書類は紛失					

現地調査写真

必ずカラー写真を
貼付けてください

北面

必ずカラー写真を
貼付けてください

南面

必ずカラー写真を
貼付けてください

東面

必ずカラー写真を
貼付けてください

西面

必ずカラー写真を
貼付けてください

小屋裏(火打梁確認)

必ずカラー写真を
貼付けてください

立上り基礎部

必ずカラー写真を
貼付けてください

床下

必ずカラー写真を
貼付けてください

床下

一般診断法による診断計算

物件名 ○○○○邸 耐震診断

積雪1.0m (改定版基準)

診断士登録番号

第○○○○○号

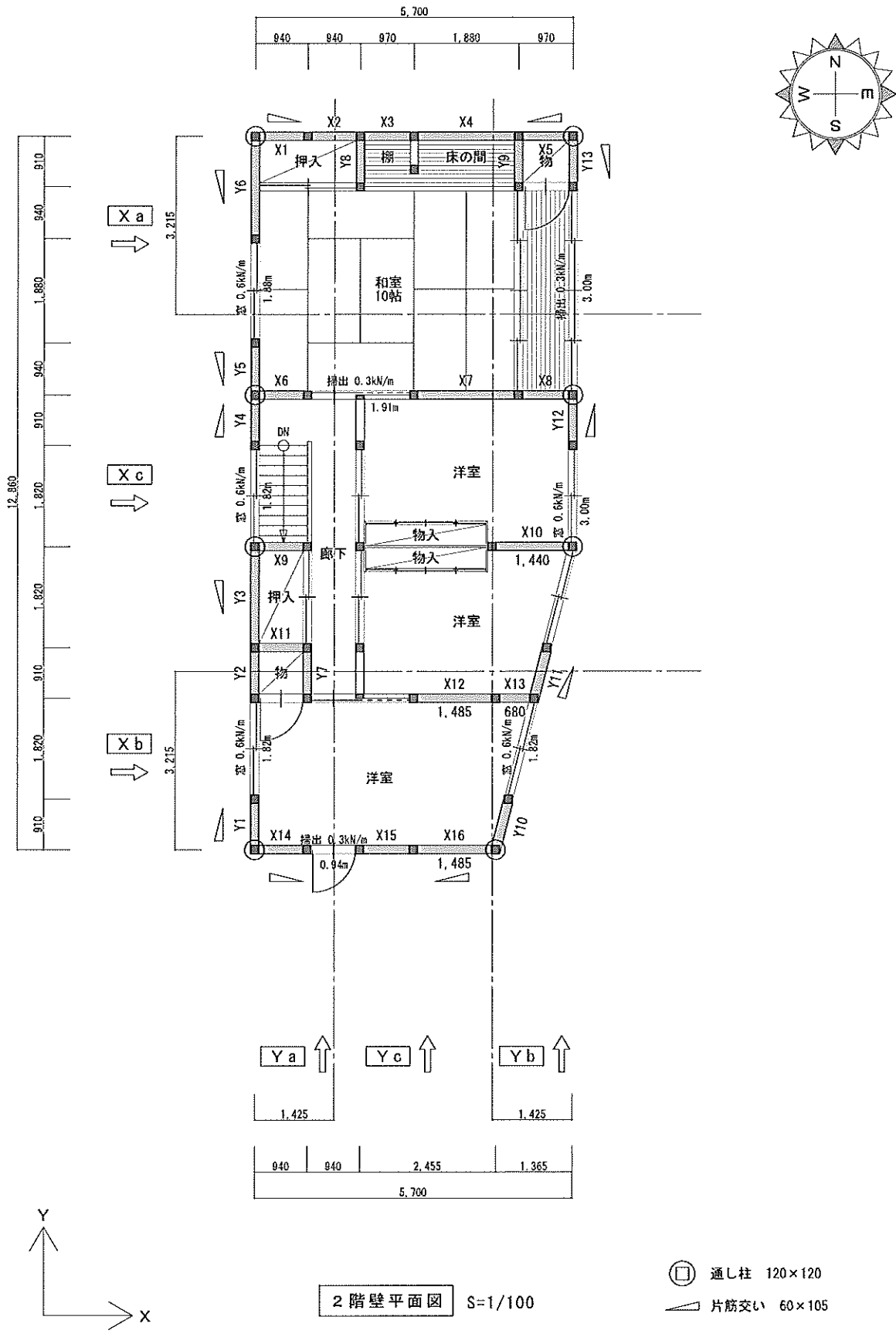
診断士名

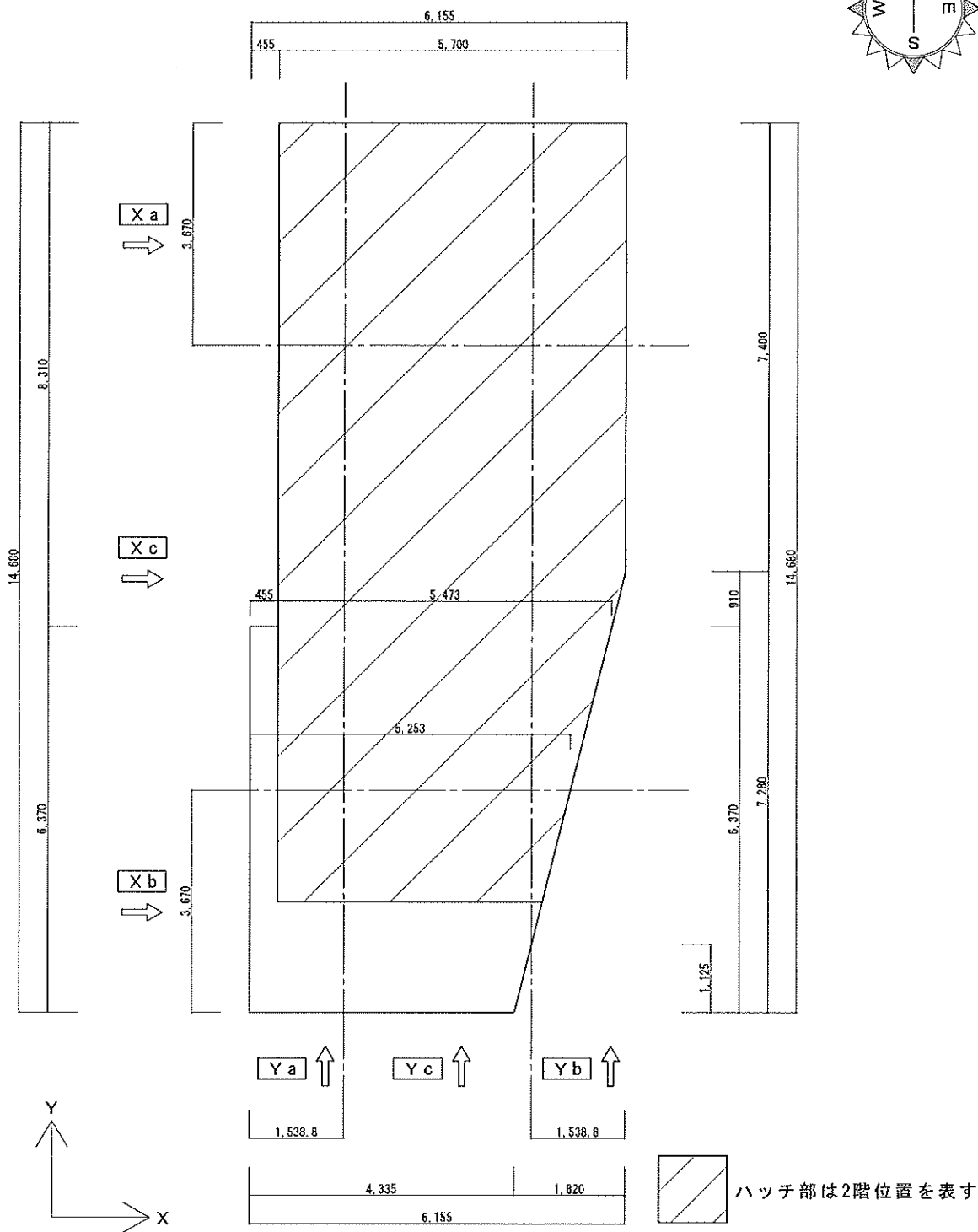
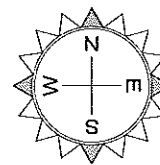
○○○○○

印

診断建物概要

物件名	〇〇〇〇邸 耐震診断	
所在地	福井県 〇〇〇市 〇〇町〇〇2丁目	
竣工年月日	昭和 54年 〇月 築 10年以上	
建物仕様	重い建物	棧瓦葺き
地域係数 Z	1	福井県
軟弱地盤割増	1	普通の地盤
形状割増	1.15	短辺 4.0m以上 6.0m未満
積雪深さ	1 m	1m以上の時は雪降しを行う
積雪割増	0.26 Z	1m以上の時は雪降しを行う
基礎形式	I	健全な鉄筋コンクリートの布基礎
床仕様	II	火打ち+荒板
階数	2	階建
主要な柱の径	120	未満
接合部	III・IV	2階 両端に通し柱がある構面の壁は接合部IIIとする。 ほぞ差し
1階 床面積	79.95 m ²	上部構造の最低値 (積雪 1.0 m)
2階 床面積	69.58 m ²	1階 0.48
延べ 面積	149.53 m ²	2階 0.64

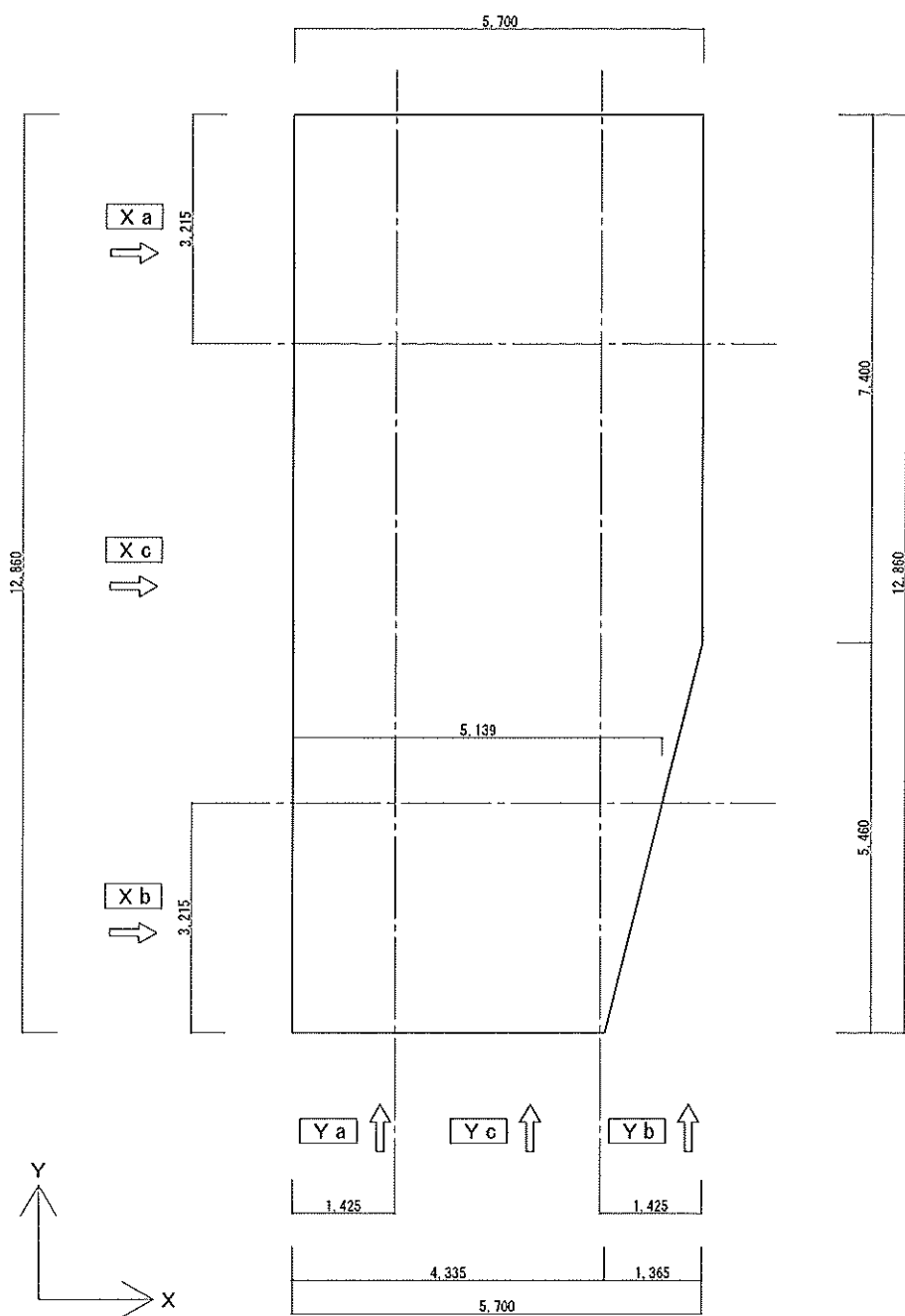
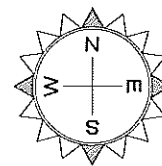




1階床面積 79.95^m2
 $5.70 \times 7.40 = 42.18$
 $(5.70 + 5.473) \times 0.91 / 2 = 5.08$
 $(5.928 + 4.335) \times 6.37 / 2 = 32.69$

四分割面積
 $Xa : 5.70 \times 3.67 = 20.92\text{m}^2$
 $Xb : (5.253 + 4.335) \times 3.67 / 2 = 17.59\text{m}^2$
 $Ya : 1.5388 \times 14.68 - 0.455 \times 8.31 = 18.81\text{m}^2$
 $Yb : (13.555 + 7.40) \times 1.5388 / 2 = 16.12\text{m}^2$

1階面積図 S=1/100



2階床面積 69.58㎡
 $5.70 \times 7.40 = 42.18$
 $(5.70 + 4.335) \times 5.46 / 2 = 27.40$

延べ面積 149.53㎡
 $79.95 + 69.58 = 149.53$

四分割面積
 $Xa : 5.70 \times 3.215 = 18.33\text{㎡}$
 $Xb : (5.139 + 4.335) \times 3.215 / 2 = 15.23\text{㎡}$
 $Ya : 1.425 \times 12.86 = 18.33\text{㎡}$
 $Yb : 1.425 \times 7.40 +$
 $(0.06 + 1.425) \times 5.46 / 2 = 14.60\text{㎡}$

2階面積図 S=1/100

必要耐力の算出

	床面積 (㎡)		床面積 当り必 要耐力 (kN/㎡)		積雪割 増係数 (kN/㎡)		地域係 数 Z		軟弱地 盤割増 係数		形状割 増係数		必要耐力 Qr (kN)	
3階														
2階	69.58	×	0.55	+	0.26)	×	1.0	×	1.0	×	1.0	=	56.36
1階	79.95	×	0.85	+	0.26)	×	1.0	×	1.0	×	1.15	=	102.06

$$\begin{aligned} \text{重い屋根} \quad RF1 &= 69.58 \div 79.95 = 0.87 \\ Q_{K_{fl2}} &= 1.3 + 0.07 \div 0.87 = 1.38 \\ Q_{K_{fl1}} &= 0.4 + 0.6 \times 0.87 = 0.92 \\ \text{2階} & \quad 0.4 \times 1.38 = 0.55 \\ \text{1階} & \quad 0.92 \times 0.92 = 0.85 \end{aligned}$$

耐力要素の配置等による低減係数用必要耐力

X方向 a

	床面積 (㎡)		床面積 当り必 要耐力 (kN/㎡)		積雪割 増係数 (kN/㎡)		地域係 数 Z		軟弱地 盤割増 係数		形状割 増係数		必要耐力 Qr (kN)	
3階														
2階	18.33	×	0.55	+	0.26)	×	1.0	×	1.0	×	1.0	=	14.85
1階	20.92	×	0.85	+	0.26)	×	1.0	×	1.0	×	1.15	=	26.70

X方向 b

	床面積 (㎡)		床面積 当り必 要耐力 (kN/㎡)		積雪割 増係数 (kN/㎡)		地域係 数 Z		軟弱地 盤割増 係数		形状割 増係数		必要耐力 Qr (kN)	
3階														
2階	15.23	×	0.55	+	0.26)	×	1.0	×	1.0	×	1.0	=	12.34
1階	17.59	×	0.85	+	0.26)	×	1.0	×	1.0	×	1.15	=	22.45

Y方向 a

	床面積 (㎡)		床面積 当り必 要耐力 (kN/㎡)		積雪割 増係数 (kN/㎡)		地域係 数 Z		軟弱地 盤割増 係数		形状割 増係数		必要耐力 Qr (kN)	
3階														
2階	18.33	×	0.55	+	0.26)	×	1.0	×	1.0	×	1.0	=	14.85
1階	18.81	×	0.85	+	0.26)	×	1.0	×	1.0	×	1.15	=	24.01

Y方向 b

	床面積 (㎡)		床面積 当り必 要耐力 (kN/㎡)		積雪割 増係数 (kN/㎡)		地域係 数 Z		軟弱地 盤割増 係数		形状割 増係数		必要耐力 Qr (kN)	
3階														
2階	14.60	×	0.55	+	0.26)	×	1.0	×	1.0	×	1.0	=	11.83
1階	16.12	×	0.85	+	0.26)	×	1.0	×	1.0	×	1.15	=	20.58

強さの算定

1階 X方向

基礎仕様 I とする 接合部 IV の時

注: 壁基準耐力が2.0以下の場合は2.0、10.0以上の場合は10.0とする

	仕 様	壁基準 耐力Fw (kN/m)	接合部 耐力低減 Kjs	壁長 (m)	Qwi (kN)	Qw = Σ Qwi	Qei (kN)	Qe = Σ Qei	Qu = Qw+Qe (kN)	
X-a	1 サイディング張り 筋交い 60×105(金物なし) ベニヤ合板(厚3.0:真壁)	1.70 2.60 0.90 5.20	×	0.83	×	0.94	=	4.06		
	2 サイディング張り ベニヤ合板(厚3.0:真壁)	1.70 0.90 2.60	×	1.00	×	0.94	=	2.44		
	3 サイディング張り ベニヤ合板(厚3.0:真壁)	1.70 0.90 2.60	×	1.00	×	0.97	=	2.52		
	4 サイディング張り ベニヤ合板(厚3.0:真壁)	1.70 0.90 2.60	×	1.00	×	1.425	=	3.71		
	5 サイディング張り 筋交い 60×105(金物なし) ベニヤ合板(厚3.0:真壁)	1.70 2.60 0.90 5.20	×	0.83	×	1.425	=	6.15	18.88	
開 口	窓型開口	0.60	×	0.00	=		0.00			
	掃き出し型開口	0.30	×	0.00	=		0.00	0.00	18.88	
X-c	6 ベニヤ合板厚4.0+じゅらく塗り 化粧合板 4.0mm	0.90 0.90 2.00	×	1.00	×	0.94	=	1.88		
	7 ベニヤ合板厚4.0+じゅらく塗り 化粧合板 4.0mm	0.90 0.90 2.00	×	1.00	×	1.88	=	3.76		
	8 ベニヤ合板厚4.0+じゅらく塗り 化粧合板 4.0mm	0.90 0.90 2.00	×	1.00	×	0.97	=	1.94		
	9 化粧合板 4.0mm 化粧合板 4.0mm	0.90 0.90 2.00	×	1.00	×	0.94	=	1.88		
	10 化粧合板 4.0mm 化粧合板 4.0mm	0.90 0.90 2.00	×	1.00	×	0.94	=	1.88		
	11 化粧合板 4.0mm 化粧合板 4.0mm	0.90 0.90 2.00	×	1.00	×	1.91	=	3.82		
	12 化粧合板 4.0mm ケイカル板+塗装	0.90 2.90 3.80	×	0.93	×	1.44	=	5.09	20.25	
	開 口	窓型開口	0.60	×	0.00	=		0.00		
		掃き出し型開口	0.30	×	1.91	=		0.57	0.57	20.82

1階 X方向

基礎仕様 I とする 接合部 IV の時

注: 壁基準耐力が2.0以下の場合は2.0、10.0以上の場合は10.0とする

	仕 様	壁基準 耐力Fw (kN/m)	接合部 耐力低減 Kjs	壁長 (m)	Qwi (kN)	Qw = Σ Qwi	Qei (kN)	Qe = Σ Qei	Qu = Qw+Qe (kN)
X-b	化粧合板 4.0mm	0.90							
	化粧合板 4.0mm	0.90							
	合計1.80→2.00	2.00	×	1.00	×	1.94	=	3.88	
	ラスシート+モルタル塗り壁	2.50							
	化粧合板 4.0mm	0.90							
		3.40	×	0.96	×	0.94	=	3.07	
	化粧合板 4.0mm	0.90							
	筋交い 60×105(金物なし)	2.60							
	サイディング張り	1.70							
		5.20	×	0.83	×	1.91	=	8.24	
	化粧合板 4.0mm	0.90							
	筋交い 60×105(金物なし)	2.60							
	サイディング張り	1.70							
	5.20	×	0.83	×	0.94	=	4.06	19.25	
開口	窓型開口	0.60			0.00		0.00		
	掃き出し型開口	0.30	×		3.00	=	0.90		
	掃き出し型開口	0.30			1.395		0.42	1.32	20.57
合計									60.27

1階 Y方向

基礎仕様 I とする 接合部 IV の時

注: 壁基準耐力が2.0以下の場合は2.0、10.0以上の場合は10.0とする

	仕 様	壁基準 耐力Fw (kN/m)	接合部耐 力低減 Kjs	壁長 (m)	Qwi (kN)	Qw= Σ Qwi	Qei (kN)	Qe= Σ Qei	Qu= Qw+Qe (kN)
Y-a	1 サイディング張り 筋交い 60×105(金物なし) 化粧合板 4.0mm	1.70 2.60 0.90 5.20	×	0.83	×	1.82	=	7.86	
	2 サイディング張り 筋交い 60×105(金物なし) 化粧合板 4.0mm	1.70 2.60 0.90 5.20	×	0.83	×	0.91	=	3.93	
	3 サイディング張り 筋交い 60×105(金物なし) 化粧合板 4.0mm	1.70 2.60 0.90 5.20	×	0.83	×	0.91	=	3.93	
	4 サイディング張り 筋交い 60×105(金物なし) 化粧合板 4.0mm	1.70 2.60 0.90 5.20	×	0.83	×	1.365	=	5.89	
	5 サイディング張り 筋交い 60×105(金物なし) ベニヤ合板(厚3.0:真壁)	1.70 2.60 0.90 5.20	×	0.83	×	0.91	=	3.93	
	6 ラスシート+モルタル塗り壁 化粧合板 4.0mm	2.50 0.90 3.40	×	0.96	×	1.82	=	5.94	
	7 化粧合板 4.0mm 化粧合板 4.0mm 合計1.80→2.00	0.90 0.90 2.00	×	1.00	×	0.91	=	1.82	33.29
開 口	窓型開口	0.60	×	/	×	1.82	/	1.09	3.98
	窓型開口	0.60				1.82		1.09	
	窓型開口	0.60				3.00		1.80	
	掃き出し型開口	0.30				0.00		0.00	
Y-c	8 化粧合板 4.0mm 化粧合板 4.0mm 合計1.80→2.00	0.90 0.90 2.00	×	1.00	×	0.91	=	1.82	
	9 ベニヤ合板(厚3.0:真壁) ベニヤ合板(厚3.0:真壁) 合計1.80→2.00	0.90 0.90 2.00	×	1.00	×	0.91	=	1.82	3.64
	開口 窓型開口 掃き出し型開口	0.60 0.30	×	/	×	0.00 0.00	=	0.00 0.00	0.00
Y-b	10 化粧合板 4.0mm 筋交い 60×105(金物なし) サイディング張り	0.90 2.60 1.70 5.20	×	0.83	×	1.82	=	7.86	
	11 ベニヤ合板(厚3.0:真壁) ベニヤ合板厚4.0+じゅらく塗り 合計1.80→2.00	0.90 0.90 2.00	×	1.00	×	0.91	=	1.82	
	12 化粧合板 4.0mm 筋交い 60×105(金物なし) サイディング張り	0.90 2.60 1.70 5.20	×	0.83	×	0.91	=	3.93	

1階 Y方向

基礎仕様 I とする 接合部 IV の時

注: 壁基準耐力が2.0以下の場合は2.0、10.0以上の場合は10.0とする

	仕様	壁基準 耐力Fw (kN/m)	接合部耐 力低減 Kjs	壁長 (m)	Qwi (kN)	Qw= Σ Qwi	Qei (kN)	Qe= Σ Qei	Qu= Qw+Qe (kN)
Y-b	13 化粧合板 4.0mm 筋交い 60×105(金物なし) サイディング張り	0.90	0.83	0.91	3.93	21.46	1.09	1.99	23.45
		2.60							
		1.70							
		5.20	×		=				
14	ベニヤ合板厚4.0+じゅらく塗り 筋交い 60×105(金物なし) サイディング張り	0.90	0.83	0.91	3.93	21.46	1.09	1.99	23.45
		2.60							
		1.70							
		5.20	×		=				
開口	窓型開口	0.60	/	1.82	/	/	0.90	1.99	23.45
		0.30		3.00					
合計									64.36

強さの算定

2階 X方向

基礎仕様 I とする 接合部 III・IV の時

注: 壁基準耐力が2.0以下の場合には2.0、10.0以上の場合には10.0とする

	仕 様	壁基準 耐力Fw (kN/m)	接合部耐 力低減 Kjs	壁長 (m)	Qwi (kN)	Qw= Σ Qwi	Qei (kN)	Qe= Σ Qei	Qu= Qw+Qe (kN)
X-a	1 サイディング張り 筋交い 60×105(金物なし) ベニヤ合板(厚3.0:真壁)	1.70 2.60 0.90 5.20	接合部III	0.63	0.94	=	3.08		
	2 サイディング張り ベニヤ合板(厚3.0:真壁)	1.70 0.90 2.60							
	3 サイディング張り ベニヤ合板厚4.0+じゅらく塗り	1.70 0.90 2.60	接合部III	0.81	0.97	=	2.04		
	4 サイディング張り ベニヤ合板厚4.0+じゅらく塗り	1.70 0.90 2.60						接合部III	0.81
	5 サイディング張り 筋交い 60×105(金物なし) ベニヤ合板(厚3.0:真壁)	1.70 2.60 0.90 5.20	接合部III	0.63	0.97	=	3.18		
	開 口	窓型開口 掃き出し型開口						0.60 0.30	/
X-c	6 ベニヤ合板厚4.0+じゅらく塗り 化粧合板 4.0mm	0.90 0.90 2.00	接合部III	1.00	0.94	=	1.88		
	7 ベニヤ合板厚4.0+じゅらく塗り 化粧合板 4.0mm	0.90 0.90 2.00							接合部III
	8 ベニヤ合板厚4.0+じゅらく塗り 化粧合板 4.0mm	0.90 0.90 2.00	接合部III	1.00	0.97	=	1.94		
	9 化粧合板 4.0mm ベニヤ合板(厚3.0:真壁)	0.90 0.90 2.00						接合部III	1.00
	10 化粧合板 4.0mm ベニヤ合板(厚3.0:真壁)	0.90 0.90 2.00	接合部III	1.00	1.44	=	2.88		
	11 ベニヤ合板(厚3.0:真壁) ベニヤ合板(厚3.0:真壁)	0.90 0.90 2.00						接合部III	1.00
	開 口	窓型開口 掃き出し型開口	0.60 0.30	/	0.00 1.91	/	0.00 0.57		

2階 X方向

基礎仕様 I とする 接合部 III・IV の時
 注:壁基準耐力が2.0以下の場合は2.0、10.0以上の場合は10.0とする

	仕 様	壁基準 耐力Fw (kN/m)	接合部耐 力低減 Kjs	壁長 (m)	Qwi (kN)	Qw= Σ Qwi	Qei (kN)	Qe= Σ Qei	Qu= Qw+Qe (kN)
X-b	化粧合板 4.0mm	0.90	1.00	1.485	2.97	15.45	0.00	0.28	15.73
	化粧合板 4.0mm	0.90							
	合計1.80→2.00	2.00 ×							
	化粧合板 4.0mm	0.90	1.00	0.68	1.36				
	化粧合板 4.0mm	0.90							
	合計1.80→2.00	2.00 ×							
	14	化粧合板 4.0mm	0.90	接合部III	0.94				
筋交い 60×105(金物なし)		2.60							
サイディング張り		1.70							
15	化粧合板 4.0mm	0.90	接合部III	0.97	3.18				
	筋交い 60×105(金物なし)	2.60							
	サイディング張り	1.70							
16	化粧合板 4.0mm	0.90	接合部III	1.485	4.86				
	筋交い 60×105(金物なし)	2.60							
	サイディング張り	1.70							
開 口	窓型開口	0.60	/	0.00	/				
	掃き出し型開口	0.30		0.94					
合計									44.77

2階 Y方向

基礎仕様 I とする 接合部 III・IV の時
 注:壁基準耐力が2.0以下の場合は2.0、10.0以上の場合は10.0とする

	仕 様	壁基準 耐力Fw (kN/m)	接合部耐 力低減 Kjs	壁長 (m)	Qwi (kN)	Qw= Σ Qwi	Qei (kN)	Qe= Σ Qei	Qu= Qw+Qe (kN)
Y-a	1	サイディング張り	1.70	接合部III	0.91	2.98			
		筋交い 60×105(金物なし)	2.60						
		ベニヤ合板(厚3.0:真壁)	0.90						
	2	サイディング張り	1.70	接合部III	0.91	1.92			
		ベニヤ合板(厚3.0:真壁)	0.90						
			2.60 ×						
	3	サイディング張り	1.70	接合部III	1.82	5.96			
		筋交い 60×105(金物なし)	2.60						
		化粧合板 4.0mm	0.90						
	4	サイディング張り	1.70	接合部III	0.91	2.98			
		筋交い 60×105(金物なし)	2.60						
		化粧合板 4.0mm	0.90						
	5	サイディング張り	1.70	接合部III	0.94	3.08			
		筋交い 60×105(金物なし)	2.60						
		ベニヤ合板厚4.0+じゅらく塗り	0.90						
		5.20 ×							

2階 Y方向

基礎仕様 I とする 接合部 III・IV の時
 注:壁基準耐力が2.0以下の場合は2.0、10.0以上の場合は10.0とする

	仕様	壁基準 耐力Fw (kN/m)	接合部耐 力低減 Kjs	壁長 (m)	Qwi (kN)	Qw= Σ Qwi	Qei (kN)	Qe= Σ Qei	Qu= Qw+Qe (kN)								
Y-a	6 サイディング張り 筋交い 60×105(金物なし) ベニヤ合板厚4.0+じゅらく塗り	1.70	接合部III	1.85	6.06	24.80											
		2.60															
		0.90															
		5.20 × 0.63 × 1.85 = 6.06															
7	ベニヤ合板(厚3.0:真壁) 化粧合板 4.0mm	0.90	1.00	0.91	1.82	24.80											
		0.90															
	合計1.80→2.00	2.00 × 1.00 × 0.91 = 1.82															
開口	窓型開口	0.60	/	1.82	/	/	1.09										
	窓型開口	0.60								/	1.82	/	1.09				
	窓型開口	0.60												/	1.88	/	1.13
	掃き出し型開口	0.30															
Y-c	8 ベニヤ合板(厚3.0:真壁) ベニヤ合板厚4.0+じゅらく塗り	0.90	1.00	0.91	1.82	1.82											
		0.90															
		合計1.80→2.00	2.00 × 1.00 × 0.91 = 1.82														
開口	窓型開口	0.60	/	0.00	/	/	0.00										
	掃き出し型開口	0.30								/	0.00	/	0.00				
Y-b	9 ベニヤ合板厚4.0+じゅらく塗り ベニヤ合板(厚3.0:真壁)	0.90	1.00	0.91	1.82												
		0.90															
		合計1.80→2.00	2.00 × 1.00 × 0.91 = 1.82														
	10	化粧合板 4.0mm サイディング張り	0.90	接合部III	0.91	1.92											
			1.70														
		2.60 × 0.81 × 0.91 = 1.92															
	11	化粧合板 4.0mm 筋交い 60×105(金物なし) サイディング張り	0.90	接合部III	0.91	2.98											
			2.60														
		5.20 × 0.63 × 0.91 = 2.98															
	12	化粧合板 4.0mm 筋交い 60×105(金物なし) サイディング張り	0.90	接合部III	0.91	2.98											
			2.60														
		5.20 × 0.63 × 0.91 = 2.98															
	13	ベニヤ合板(厚3.0:真壁) 筋交い 60×105(金物なし) サイディング張り	0.90	接合部III	0.91	2.98	12.68										
2.60																	
	5.20 × 0.63 × 0.91 = 2.98																
開口	窓型開口	0.60	/	1.82	/	/	1.09										
	窓型開口	0.60								/	3.00	/	1.80				
	掃き出し型開口	0.30												/	3.00	/	0.90
合計									46.41								

耐力要素の配置等による低減係数

床仕様 II 火打ち+荒板

			必要耐力 Q_r	保有耐力 $Q_w = \sum Q_{wi}$	充足率 Q_w/Q_r	壁率比 a/b b/a	配置による 低減係数 e_{Kfl}
3F	X方向	X a					
		X b					
	Y方向	Y a					
		Y b					
2F	X方向	X a	14.85	14.24	0.96	0.77	0.90
		X b	12.34	15.45	1.25	1.30	
	Y方向	Y a	14.85	24.80	1.67	1.56	1.00
		Y b	11.83	12.68	1.07	0.64	
1F	X方向	X a	26.70	18.88	0.71	0.83	0.90
		X b	22.45	19.25	0.86	1.21	
	Y方向	Y a	24.01	33.29	1.39	1.34	1.00
		Y b	20.58	21.46	1.04	0.75	

劣化度による低減係数

部位	材料、部材等	劣化事象	存在点数		劣化点数		
			築10年未満	築10年以上			
屋根葺材	金属板	変退色・さび・さび穴・ずれ・めくれがある	2	2	2	2	
	瓦・スレート	割れ・欠け・ずれ・欠落がある				2	
樋	軒・呼び樋	変退色・さび・割れ・ずれ・欠落がある	2	2	2	2	
	縦樋	変退色・さび・割れ・ずれ・欠落がある	2	2	2	2	
外壁仕上げ	木製板・合板	水浸み痕・こけ・割れ・抜け節・ずれ腐朽がある	4	4	4	4	
	窯業系サイディング	こけ・割れ・ずれ・欠落・シール切れがある					
	金属サイディング	変退色・さび・さび穴・ずれ・目地空き・シール切れがある					
	モルタル	こけ・0.3mm以上の亀裂・剥落がある					
露出した躯体		水浸み痕・こけ・腐朽・蟻道・蟻害がある	2	2	2	2	
バルコニー	手摺壁	木製板・合板	/	/	/	/	
		窯業系サイディング					こけ・割れ・ずれ・欠落・シール切れがある
		金属サイディング					変退色・さび・さび穴・ずれ・目地空き・シール切れがある
	外壁との接合部	外壁との接合部に亀裂・隙間・緩み・シール切れ・剥離がある					
床排水		壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが無い	/	/	/	1	
内壁	一般壁	内壁・窓下	2	2	2	2	
	浴室	タイル	2	2	2	2	
		タイル以外	水浸み痕・変色・亀裂・カビ・腐朽・蟻害がある				
床	床面	一般室	2	2	2	2	
		廊下	/	/	1	1	
	床下	基礎の亀裂や床下部材に腐朽・蟻道・蟻害がある	2	2	2	2	
合計					21	2	

$$1 - (\text{劣化点数} / \text{存在点数}) = 1 - (2/21) = 0.90$$

※特に構造耐力に影響を及ぼす劣化は見受けられないので低減係数は、劣化点数を2とし上限値の0.90とする。

上部構造評点

階	方向	壁・柱 耐力 Qu(kN)	配置低減 係数eKfl	劣化度 dK	保有する 耐力 edQu(kN)	必要耐力 Qr (kN)	上部構造 評点
3階	X						
	Y						
2階	X	44.77	0.90	0.90	36.26	56.36	0.64
	Y	46.41	1.00	0.90	41.76	56.36	0.74
1階	X	60.27	0.90	0.90	48.82	102.06	0.48
	Y	64.36	1.00	0.90	57.93	102.06	0.57

上部構造評点	判定
1.5以上	倒壊しない。
1.0以上～1.5未満	一応倒壊しない。
0.7以上～1.0未満	倒壊の可能性がある。
0.7未満	倒壊の可能性が高い。

本診断は、積雪量を1.0mと仮定し、それ以上積雪のある地域では雪下ろしの習慣があることから、当該積雪量を地震時の荷重として診断を実施している。

また上部構造の評点での倒壊とは、まれに発生する大地震【震度6強】の地震を想定しております。

★★★★★★★★★★★★総合評価★★★★★★★★★★★★

a) 基礎地盤

地盤	対策	記入欄○印	注意事項
よい			
普通		○	
悪い	表層の地盤改良を行っている		
	杭基礎である 特別な対策を行っていない		

地形	対策	記入欄○印	注意事項
平坦・普通		○	
がけ地・急斜面	コンクリート擁壁		
	石積み 特別な対策を行っていない		

基礎形式	状態	記入欄○印	注意事項
RC基礎	健全	○	仕上げ面においてヘアークラック程度のひび割れであるため健全な鉄筋コンクリート基礎で評価する。
	ひび割れが生じている		
無筋コンクリート基礎	健全		
	ひび割れが生じている		
その他ブ ロック基礎	足固めがある		
	足固めがない		

b) 上部構造

階	方向	上部構造評点	
3	X		
	Y		
2	X	0.64	倒壊の可能性が 高い。
	Y	0.74	倒壊の可能性が ある。
1	X	0.48	倒壊の可能性が 高い。
	Y	0.57	倒壊の可能性が 高い。

総合所見

- * 今回行った耐震診断は国土交通省が定めた”一般診断法”という方法に拠るものである。
この耐震診断は建物や基礎を傷つけずに行うもののため、すべてを解明することは無理であるが、それでもかなりの精度をもって地震に対する強度を判定できる方法であります。
- * 本診断は、積雪が1.0mの時に大きな地震が発生したことを条件に診断を実施しております。
ここでの大きな地震とは、稀に発生する震度6強の地震を指しております。
- * 基礎は、設計図書にフーチング・鉄筋の記載があり、またヘアークラック程度のひび割れだったので健全な鉄筋コンクリートの基礎として評価しました。
- * 外壁は、特に目立った損傷はありませんでした。また、建物内部において漏水は無いということで劣化度の低減は、経年によるもので評価しました。
- * 筋交いは、立面図に記載がありましたが、内部については、図面に記載がないのと、確認出来なかったため、外壁廻りのみ評価しました。
筋交いの大きさについては、1ヶ所天井裏より寸法を確認し、全て同じものであるとして評価しました。
- * 1, 2階ともX・Y方向とも壁量が不足しています。
壁をバランスよく配置して壁量を増やして補強することを推奨します。
- * 柱の傾きは、3mm程度で1/500以下で特に問題ありません。
- * 接合部に金物の使用がありません。大地震時には、梁が抜け落ちる可能性があります。接合部を金物で補強することを推奨します。
- * 構造用金物・筋交・構造用合板等で補強し建物全体の強度を高めることをおすすめいたします。
- * 生命・財産の安全を図るため、常時使用する居間・寝室などを重点に建物の改修時に補強することを推奨いたします。
- * 大地震の際に注意すべきは、家具の倒壊、ガラスの飛散、火の始末も大切です。

